

公表

## 事業所における自己評価総括表



○事業所名	放課後等デイサービス HALOせとの丘			
○保護者評価実施期間	2025年2月10日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	2025年2月10日		～	2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者主体の支援体制	途切れない社会福祉を活かしながら、合理的配慮の得られる環境で、生き生きと生きる力が育つよう話し合い、スタッフ間で共有している。	社会の一員として心豊かに生きていけるよう、経験値が上がる支援を行っていく。
2	・発達状況に応じたきめ細かい個別支援及び、広さを活かした集団(個別)での支援	特性や発達状況に応じた個別支援(学習やトレーニング)ができています。また、集団レクリエーションにおいて広さを活かし、特性や難易度に変化をつけ、小グループ編成で取り組むことがある。そうすることで、ルールやコミュニケーションスキルの習得につなげることができるよう意識している。	子ども同士の関わりの中で、子ども自身の自主性・主体性を最大限導き出せるよう支援する。
3	・日々の活動の様子をSNS(インスタ)を通じて発信し、保護者様の安心感とご家族でのお子様との対話のきっかけとなっている	子どもたちの生き生きとした表情を、いち早く保護者にお伝えする方法のひとつとしてSNSを活用している。活動の内容や様子を保護者が知ることによって、ご家族での親子の会話のきっかけとして喜ばれている。	SNSにアップする頻度を増やす。ただし、顔出しなどの制限には注意を払い、安全に行うことを心がける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・高校卒業以降の進路についての知識不足	高校生になると進学先の部活や実習、進学先によっては送迎できなくなるため、高校生の利用率が低いのが現状。そのため、就労や進学先の選択決定の過程や、進学先についてスタッフが知識不足になっている。	支援学校高等部、専門学校、専修学校など障害をもつ児童の進学先からその先の就労形態の知識を学び、実際の現場を見学を進める。
2	・専門職による支援	理学療法士が在籍しているが専門知識が支援内容に活かしきれない。また、専門的見地に沿った支援方法が、十分にはスタッフに周知できていない。	専門的知識を活かしたレクリエーションを企画し、事前のスタッフミーティングでねらいや目的をスタッフが共有してすすめる。
3	・子どもに対する家族の対応力向上のための「ペアレントトレーニング」等や家族が参加できる研修の場の提供及び情報提供	保護者様からの個別相談はできているが、多くの保護者様を対象とした研修や情報提供の取り組みはできていない。	今後は、年間計画に研修等を組み入れるなど、子どもに対する家族の対応力向上につなげていく。